（５）農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

① 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ デジタルマーケティングによる農村地域のPR

- とちぎの農村の魅力や来訪意欲の向上を図るため、デジタル技術を活用した広告や動画の配信を行っています。
- Webサイトやデジタル広告、SNSなど、幅広いチャネルを活用し、ターゲットの行動分析等による効果的な情報発信を行ったところ、とちぎの農村めぐりLINE登録者やイベントへの参加者が増加しました。
- 今後も、農村地域の魅力を戦略的に発信し、都市農村交流施設や中山間地域への来訪者の増加、交流促進につなげていきます。







農村地域をＰＲするＳＮＳやデジタル広告

（農村振興課）

○ TUNAGUを核とした魅力発信の強化

- 農村ボランティアマッチングサイト「TUNAGU」会員の獲得や活動への参加促進に向け、都市住民等10名と地域団体との交流会を開催し、ボランティア活動（クエスト）の体験や地域との交流を行いました。
- また、TUNAGU特派員が積極的に、交流会の様子や活動体験を記事にしてサイトに投稿し、会員は1年間で235名増加、累計で760名を突破しました。
- 今後も、交流会の開催や「TUNAGU」を核とした情報発信を通じて、協働活動への参加促進を図ることで、中山間地域における関係人口の増加を目指します。



農村ファン交流会
(茂木町町田本郷地区)



特派員による投稿記事

（農村振興課）

（５）農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

① 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ とちぎ農ある暮らしの推進

- 農ある暮らしへの理解を深める交流会や、県内で農ある暮らしを希望する若者・女性の呼び込みに向けた出張相談会を開催しました。
- 体験交流会には17名が参加し、地域とのふれ合いや農業体験を通じて、農村での暮らしや農との携わり方を体感しました。また、出張相談会では27組に実践的なアドバイスを行い、4名が移住につながりました。
- 今後も、こうした取組を通じて、中山間地域における“農ある暮らし”の魅力発信と将来的な実践者の掘り起こしを図ります。



農ある暮らし体験交流会
（宇都宮市）



出張相談会
（東京都有楽町）

（農村振興課）

○ 中山間地域等直接支払交付金に係る広域協定組織の設立（芳賀地域）

- 中山間地域等直接支払制度では、一定の事務負担が生じていることから、負担軽減を図るためには、集落協定の広域化が求められています。
- 茂木町では、令和７（2025）年６月に、これまであった65の集落協定を1つに統合した新たな広域協定組織「茂木町中山間活性化協議会」が設立されました。
- 今後は、本協議会の円滑な組織運営や交付金の効果的な活用を支援していきます。



協議会の設立総会



スマート農業に係る説明会

（芳賀農業振興事務所）

（５）農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

① 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ グローバルビジネスの創出に向けたグリーンツーリズムの推進（芳賀地域）

- インバウンド需要を見据え、地域資源を活用したグリーンツーリズム推進と、外国人の受入体制強化に取り組んでいます。
- 外国人とのコミュニケーションに役立つ「指さし会話シート」の観光いちご園への配布や、農泊開業セミナーを開催しました。また、新たなコンテンツ創出に向けた地域農業者等によるワークショップの開催を支援しました。
- 今後も、地域資源を生かしたグリーンツーリズムの取組やインバウンド対応を支援していきます。



農泊開業セミナーの様子

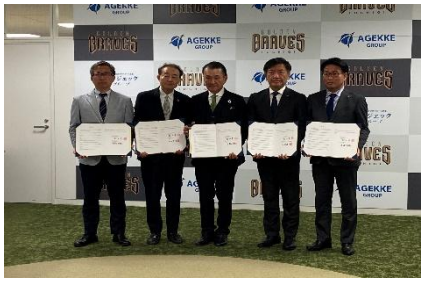


ワークショップの様子

（芳賀農業振興事務所）

○ 企業との連携による地域共同活動の活性化（下都賀地域）

- 農業者の減少や高齢化の進行に伴い、農村地域における水路の泥さらいや草刈り等の共同活動の継続が困難になりつつある地域が増えています。
- 共同活動の活性化を図るため、小山用水土地改良区では、令和7(2025)年5月に地域の関連企業4社が連携し協定を締結、9月には地域の幹線排水路の草刈りを共同で実施しました。
- この取組を参考に、同様の悩みを抱える他の地域においても、非農業者の参加促進や企業連携が広がっていくことを期待しています。



連携協定の締結



共同活動（草刈り）

（下都賀農業振興事務所）

（５）農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

① 農村地域における関係人口の創出・拡大

○　那珂川あゆ街道　ますます活躍中（那須地域）

- 令和6（2024）年度に活動を再開した那珂川あゆ街道推進協議会では、会員の連携のもと、様々な取組を実施しました。
- 各種イベントへの出展のほか、地域のサイクリングイベント「ツール・ド・大那」における商品の提供や馬頭高等学校と連携した料理教室の開催を通して、鮎や地元農産物の魅力をPRしました。
- 今後も、新規層に向けた取組を進めながら、地域資源のPRと誘客促進を支援していきます。



ツール・ド・大那



鮎料理教室

（那須農業振興事務所）

○　田舎の魅力を生かした都市農村交流施設の整備（安足地域）

- 佐野市仙波町にある「農林漁家高齢者センター」は、「そばで地域おこし」をモットーとしたむらづくり団体が運営する「農村レストラン」県内第1号です。
- 利用客の高齢化に伴い、開業以来使用していた座卓テーブルをハイテーブルにリニューアルし、老若男女問わず利用できるよう施設整備を行いました。
- 今後も都市農村交流施設等への誘客促進・満足度向上による地域活性化を支援していきます。



農林漁家高齢者センター



ﾘﾆｭｰｱﾙしたﾃｰﾌﾞﾙと椅子

（安足農業振興事務所）

（５）農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

① 農村地域における関係人口の創出・拡大

○『親子で楽しむうどん打ち教室』の実施（安足地域）

- 「足利佐野めんめん街道」では、「見る・食べる・体験できる」をテーマに、親子で楽しむうどん打ち教室を開催しました。
- 参加者は、麦講座やうどん打ち教室を通して、楽しみながら食と農に対する理解と関心を深めることができました。
- 今後も食と農への理解促進を図りながら、地域や産業の活性化を進めていきます。


うどん打ち実演の様子


参加者のうどん打ちの様子

（安足農業振興事務所）



（５）農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

② 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 農泊による地域活性化に向けたシンポジウムを開催

- 農業者や観光事業者、市町等を対象に、農泊を通じた農村地域の活性化やインバウンド需要の増加への対応を目的としたシンポジウムを開催しました。
- 先進的な農泊の取組やインバウンドの受入体制についての講義、県内実践者による農泊取組事例の報告を行いました。また、トークセッションでは、登壇者による活発かつ有意義な意見交換が行われました。
- 今後も、県内外の優良事例を共有し、インバウンド受入や農泊への取組の機運の醸成を図っていきます。



（一社）仙北市農山村体験推進協議会による講演



トークセッションの様子

（農村振興課）

○ いちごオーナー体験イベントの開催

- 農村地域へのインバウンド誘客の促進及び県産農産物をはじめとする農村資源の認知度向上を図るため、台湾人インフルエンサーと在日台湾人を招へいし、いちごオーナーを体験するイベントを開催しました。
- いちごの品種や成長の様子を知ることができ、自らがオーナーとなったいちごを味わいながら生産者と交流できる特別な体験に、参加者からは好意的な感想が寄せられました。
- インフルエンサーによる情報発信を通じて、農村地域の魅力が広く周知され、誘客が拡大されることを期待しています。



いちごオーナー体験イベント



インフルエンサー投稿画像

（農村振興課）

（５）農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

② 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 農村地域で活躍する人材の育成

- 農村の人口減少や高齢化が進む一方、自然豊かな農村の持つ価値や魅力が再評価され、若者を中心に田園回帰の機運が高まっています。
- これからの農村を支え、地域で活躍する人材を確保・育成するため、若者を対象としたグリーン・ツーリズムの講座や体験ツアー、インターンシップ、ボランティアの研修などを実施しました。
- 地域の仕事体験や協働活動を通して、地域を支える多様な人材の育成と、交流・関係人口の創出・拡大に取り組んでいきます。



グリーン・ツーリズム
体験ツアー参加者



ボランティア研修の様子

（農村振興課）

○ 「バレンタインマルシェinかわち」を開催（河内地域）

- 地域農業の理解促進とファンづくりにつなげることを目的に、河内地域の農産物の魅力を広く発信し、生産者と消費者が直接交流できる「マルシェ」を開催しました。
- 会場の宮みらいライトヒルでは、河内地域の農産物や農産加工品の販売、花の寄せ植え体験などが行われ、県内外からの多くの来場者でにぎわいました。
- 今後も、生産者と消費者が直接交流できる機会を設けて、河内地域の農産物の魅力発信に取り組んでいきます。



マルシェ会場



販売の様子

（河内農業振興事務所）

（５）農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

② 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 農泊拠点の整備と地域資源活用で誘客促進（上都賀地域）

- 日光市を訪れる多くの旅行客は、観光だけでなく「地域の文化や食の体験」を求めており、農村地域資源を活用した誘客の可能性に期待が高まっています。
- 「のらのわ～タガヤスネットワーク～」は「日光地域農村グローバルビジネス創出計画」を策定し、農泊の拠点となる宿泊施設の整備や、地域事業者と連携した体験メニューの開発を行いました。
- 今後は連携事業者の拡大や体験メニュー等の充実化を図り、誘客の更なる拡大を期待しています。



体験メニューの開発
（干し芋作り）



体験メニューの開発
（酒蔵視察）
（上都賀農業振興事務所）

○ 中山間地域におけるブランド米の取組（塩谷南那須地域）

- 那珂川町は中山間地域の活性化に向け、令和3（2021）年度から町内産棚田米のブランド化を進めています。
- 気象センサー等を活用して栽培技術の研究を重ねた結果、令和7（2025）年度「米・食味分析鑑定コンクール」において、都道府県・海外地域代表部門で金賞を受賞しました。
- 棚田米のさらなる生産拡大・有利販売に向けて、関係者が一丸となって取組を展開していきます。



那珂川町のブランド米
「ゆりがね米」



現地検討会の様子
（塩谷南那須農業振興事務所）

（５）農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

② 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 道の駅東山道伊王野　栃木県農業大賞受賞（那須地域）

- 開設25年の「道の駅東山道伊王野」（那須町）を運営する（株）道の駅東山道伊王野は、「そばの里づくり」に取り組み続け、「そば」の名物化と「新鮮な農産物」の充実、イベント等の開催などにより、継続的に利用者を伸ばし、雇用を創出してきました。
- その取組が評価され、令和７（2025）年度栃木県農業大賞を受賞しました。
- これからも地域の農産物等を「伊王野ブランド」として供給しつつ、人材を育成し地域ににぎわいを作っていきたいと考えています。



授賞式時知事と記念撮影



2月　寒晒しそばのイベント時（那須農業振興事務所）

○ 那須高原友愛の森におけるポップ作成講習会の開催（那須地域）

- 道の駅が地域の交流拠点として果たす役割は、地域活性化を進めるうえでますます重要になっていることから、誘客数を増やす取組として、那須高原マルシェとなすとらんの合同で売り場のポップ作成講習会を開催しました。
- 講師からPR力強化のための効果的なデザインや表現のコツを学ぶとともに、参加者はアドバイスを受けながら自身でポップを試作しました。
- 作成したポップを活用して来店者の購買意欲を高めるなど、魅力的な売り場づくりにつなげていきます。



ポップ作成講習会



試作したポップ（那須農業振興事務所）